



小原田小学校だより

【教育目標】心身ともに健全で正しい判断力を持ち、自主性・創造性に満ち、心豊かなたくましい児童の育成

〇すすんで学習する子（知） 〇思いやりのある子（徳） 〇たくましい子（体）

第35号 令和2年10月20日発行

4年ユニバーサルデザイン出前講座



10月15日に4年生が市民・NPO活動推進課の皆様を講師にお迎えして『ユニバーサルデザイン出前講座』を行いました。当日は、「車いす体験」「視覚障がい疑似体験」「高齢者疑似体験」などを行い、体が不自由な人への理解を深めるとともに「思いやりの心」の大切さなど、多くことを学ぶことができました。

まず、「車いす体験」では、一人で移動することに困難さを実感することができました。数センチの段差を乗り越えることが難しいことを体験した後、もう一人の子に押しってもらう体験を行いました。「一人では乗り越えられないところも、助けてもらおうと楽に進むことができました。」との感想を述べていました。次に、アイマスクをしての視覚障がい疑似体験でも、「助けてくれる人がいて安心できました。」との感想がありました。最後の「高齢者疑似体験」でも「荷物を持ってもらったり声をかけてもらったりしてうれしかった。」との感想が述べられました。

今後どうしていきたいか、という問いに「困っている人がいたら声を掛けたり、荷物を持ってあげたりして、助けてあげたいです。」との答えがあり、講師の先生からの「心のユニバーサルデザインを大切にしましょう。」という言葉が体験をとおして理解されたこととうれしく思いました。今回の学習を今後の生活にいかして、「困っている人」へやさしさや思いやりの心で接することを期待しています。

【児童の感想】

- わたしは、お年よりの体験をして、お年よりはいつも重い物をもっているわたしたちのように動きづらいから、荷物を持ってあげることが大切だと思いました。
- ぼくは、荷物を持ちますか、と聞いてせいかいだったのかなと思いました。荷物を頑張ってあげるとらくそうに見えたので今度からはつらそうな人に荷物を持ちますかと聞くようにしたいと思いました。
- わたしは車いすに乗って、段差をこえる時に、だれかに手伝ってもらわないと登れないのでたいへんだなと思いました。こういう体験をしたからこそ車いすの人やこまっている人に声をかけて共助したいと思いました。
- 車いすの体験をして歩けない人がどれだけたいへんなのがよく分かりました。
- ぼくは、目の見えない人を手伝う役をして、目の見えない人はだれかがいっしょに進んだり止まったりすることを教えないと目の見えない人は大変だということがわかりました。
- わたしは、目の見えない人のやくをして、目の見えない人は大変だし、一人だとすごくこわいということを感じました。でも、そばに人がささえてくれていたので安心しました。もし、目の不自由な人がいたらお手伝いをしたいです。

栄養士実習

10月15日から22日までの予定で3名が栄養士実習に取り組んでいます。感染症対策として検温や手指消毒、マスク着用等をしっかり行った上で熱心に実習しています。よりよい実習となるようにサポートしていきます。

